

基準化等作業・候補項目の現状

安全－資料4－1

分野	基準化等に向けて作業を進めている項目	基準化等の候補として検討している項目
1. 歩行者・自転車等利用者の安全確保	乗用車等の衝突被害軽減ブレーキ(UNR152改正)* 1-6. 車両周辺・後方の視界確保、検知装置*	1-1. 乗用車等の夜間対応衝突被害軽減ブレーキ* 1-2. 大型車の衝突被害軽減ブレーキ(UNR131改正)* 1-3. 歩行者頭部保護性能の向上(前面ガラスまで拡大等)* 1-4. 歩行者脚部保護性能の向上 1-5. 灯火器技術の高度化(オートレベリング装置等)*
2. 自動車乗員の安全確保		2-1. 乗車人員の体格差等の考慮(高齢者、胸たわみ量等)* 2-2. ヘッドレスト* 2-3. シートポジション・事故実態を踏まえた乗員保護* 2-4. コンパティビリティ改善対応ボディ等の前面衝突対応(UNR94改正)
3. 社会的背景を踏まえて重視すべき重大事故の防止	3-1. リスク軽減機能(ドライバー異常時対応システム)(UNR79改正)*	3-2. ペダル踏み間違い事故防止装置* 3-3. 大型車の後退時警報音* 3-4. 大型バスの乗客向けシートベルトリマインダー* 3-5. ドライブレコーダー(映像記録機能)
4. 自動運転関連技術の活用・適正利用促進	4-2. 高速域等に対応したより高度な自動運転機能(UNR157改正)*	4-1. 事故自動通報装置(傷害状況の後席や歩行者への対象拡大)* 4-3. 自動運転車用記録装置(UNR157・160改正)* 4-4. 自動運転車の外向けコミュニケーション(HMI)*
5. その他安全対策	タイヤ空気圧監視装置(UNR141改正)* 乗用車等の事故情報記録装置(EDR)(UNR160)*	5-1. 電気自動車の安全性(UNR100改正)* 5-2. 燃料電池自動車の安全性(UNR134改正)* 5-3. 大型車の事故情報記録装置(UNR160改正)* 5-4. 飲酒運転防止対策

*：令和3年交通政策審議会陸上交通分科会自動車部会報告書中取り組むべき事項として挙げられているもの

(一)見え消し：令和3年交通政策審議会陸上交通分科会自動車部会技術安全WG以降に、直近において作業が完了したもの

赤字：次回改正等を予定しているもの

(参考)主な車両安全対策(基準・アセス・ASV)の検討状況

分野	安全基準	自動車アセスメント	ASV
歩行者・自転車乗員の安全対策	・乗用車等の夜間対応衝突被害軽減ブレーキ* ・大型車の衝突被害軽減ブレーキ(UNR131改正)* ・歩行者頭部保護性能の向上(前面ガラスまで拡大等)* ・歩行者脚部保護性能の向上* ・灯火器技術の高度化(オートレベリング装置等)* ・車両周辺・後方の視界確保、検知装置*	・対自転車AEBS*(2022年度開始予定) ・歩行者の脚部保護性能試験における、aPLIの導入(2024年度開始予定)*	・誰もが使用する技術となったASVの正しい理解・利用の徹底と効果的な普及戦略* ・ドライバーの操作に対してシステムの操作を優先させる安全技術のあり方の検討* ・通信・地図を活用した安全技術の実用化と普及に向けた共通仕様の検討* ・自動運転車が備えるべき安全の範囲・水準の探索のための考察*
子供・高齢者等の安全確保	・乗車人員の体格差等の考慮(高齢者、胸たわみ量等)*	・チャイルドシート性能評価の向上	
乗員保護対策	・ヘッドレスト* ・シートポジション・事故実態を踏まえた乗員保護* ・コンパティビリティ改善対応ボディ等の前面衝突対応(UNR94)	・全面衝突試験におけるMPDBの導入(THORダミーを含む)(2024年度開始予定)*	
高齢運転者等による事故の防止	・ペダル踏み間違い事故防止装置* ・リスク軽減機能(ドライバー異常時対応システム)(UNR79改正)*		
大型車による事故の防止	・大型車の後退時警報音* ・大型バスの乗客向けシートベルトリマインダー*		
自動運転関連技術関係	・事故自動通報装置(傷害状況の後席や歩行者への対象拡大)* ・高速域等に対応したより高度な自動運転機能(UNR157改正)* ・自動運転車用記録装置(UNR157・160改正)* ・自動運転車の外向けコミュニケーション(HMI)*	・自動運転技術やV2Xに関する性能評価の検討*	
新技術への対応(自動運転関係を除く)	・電気自動車の安全性(UNR100改正)* ・燃料電池自動車の安全性(UNR134改正)*		
その他安全対策	・ドライブレコーダー(映像記録機能) ・大型車の事故情報記録装置(UNR160改正)* ・飲酒運転防止対策	・交差点AEBS*(2024年度開始予定) ・AEBSの義務化に伴う試験・評価方法の再検討	